

第1回だざいふ景観賞の概要

市内の良好な景観形成に資する建築物等を顕彰することで、太宰府市が推進している景観まちづくりの啓発を行うとともに、太宰府市内における景観水準の向上を目的とする。

●期待される効果

市民・事業者の景観まちづくりへの理解・興味が得られ、地域への愛着が高まるとともに次のような具体的な効果により、みどり豊かで多くの文化遺産に恵まれた太宰府本来の価値を守り、高めていく。

- ・新規に建築される建築物等、屋外広告物等の景観への配慮
- ・歴史的建造物等の滅失の防止
- ・住宅や店舗等の外構の緑化の推進
- （二次的な効果）・建築物以外の、山並み、田園等の良好な環境の保存
- ・文化財、文化遺産等の滅失の防止 など

応募部門

- ①郷土太宰府の住まい部門（12 スポット）
歴史的建造物・伝統的和風建築による住宅
- ②太宰府コンテンポラリー住宅部門（5 スポット）
上記以外現代の住宅建築（小規模の店舗併用住宅含）
- ③太宰府の老舗店舗建築部門（3 スポット）
歴史的建造物・伝統的和風建築による店舗
- ④新しい太宰府のランドマーク部門（12 スポット）
上記以外現代の店舗建築およびモニュメントなど
- ⑤太宰府のかぜ薫るみどり部門（13 スポット）
住宅・店舗の庭など、屋外の緑化部分
- ⑥太宰府のおもてなしのこころ部門（11 スポット）
看板・のれんなど屋外に設置の広告・サインなど
- ⑦ふるさと太宰府の原風景部門（3 スポット）
田畑や里山・河川等で適切に管理されたもの
- ⑧わたしが創る太宰府の景観部門（1 団体）
主に公共の場所などでの太宰府らしい景観向上のための取り組み ※（ ）は応募物件数

●応募のポイント

- ・太宰府／所在周辺の景観に調和しているもの
- ・季節感・新しさ・懐かしさなど、魅力のあるもの
- ・長期的な活動が見込まれるもの
- （わたしが創る太宰府の景観部門の場合） など

第2回だざいふ景観賞を平成27年度に開催します。
5月頃（予定）に市公式ホームページ・市政だより・ポスター・チラシなどでお知らせいたします。
皆様からのたくさんのご応募、お待ちしております。

募集・選考

●作品募集

期間：平成26年4月7日～6月30日

応募資格：居住地、年齢性別不問

一人につき複数作品応募可

方法：郵送、Eメール、市役所都市計画課窓口受付

必要書類：専用応募様式、1年以内撮影の写真数点

●市民人気投票（本審査のための参考資料）

期間：平成26年8月1日～9月30日

方法：市内公共施設5ヶ所に応募作品一覧表を掲示、市内外の来場者による任意の投票

投票総数：114票

●審査

期間：平成26年10月中旬～11月中旬

審査員：太宰府市景観・市民遺産審議会委員（13名）

方法：全応募作品を部門毎の採点項目に基づく採点后、第6回太宰府市景観・市民遺産審議会にて各賞を決定
受賞作品は本紙1、2ページをご覧ください。

審 査 員 講 評

目に美しいものだけでなく、この太宰府に積み重ねられてきた歴史を基盤にしつつ、「梅のかおり」「まちのにぎわい」「人々のなりわい」、や「うめなどの花の香り」「遠くから聞こえてくる鐘の音」「木々をわたる風のそよぎ」「川のせせらぎ」「鳥のさえずり」など五感で感じるができる様々な要素がこのまちの景観を作り出している。これが太宰府市の景観づくりの考え方です。

第1回の景観賞にはこの考え方をご理解いただいた多くの応募がありました。審査には苦労しましたが、誰が考えてもこれは太宰府、と納得いただけるもの。おやこんな場所が、というもの。心こめたおもてなしの思いがよく表れたものなどが選ばれました。第2回が楽しみです。

太宰府市景観・市民遺産審議会 会長
あさの なおひと
浅野 直人（福岡大学名誉教授）



第1回

受 賞 ス ポ ッ ト

【だざいふ景観大賞】

甘 木 屋

【市長賞】

公益財団法人 古都大宰府保存協会
ゆづるはの会

【特別賞】

小 田 家

【部門賞】

■郷土太宰府の住まい部門
太 宰 府 天 満 宮 楼 門

■太宰府コンテンポラリー住宅部門
太 宰 府 草 の 家

■太宰府の老舗店舗建築部門
甘 木 屋 ※W受賞

■新しい太宰府のランドマーク部門
九 州 国 立 博 物 館

■太宰府のかぜ薫るみどり部門
光 明 寺 庭 園

■わたしが創る太宰府の景観部門
公益財団法人 古都大宰府保存協会
ゆづるはの会 ※W受賞



ごあいさつ

日ごろから、太宰府市の景観行政にご協力いただき、心から御礼を申し上げます。

太宰府の「景観」は、豊かな自然に抱かれた地に、古来から連綿と続く人々の生活が積み重ねられて、形づくられてきました。このような市民共有の財産である景観を「育て」、「創造する」ために、本市では太宰府市景観まちづくり計画を平成22年度に策定し、さまざまな施策を進めております。

だざいふ景観賞はこの一環として、「百年後も『古都太宰府の風景』が映えるまち」にふさわしい物件や活動を表彰するとともに、太宰府の景観の素晴らしさを再発見する機会として、また、景観まちづくりにむけて市民・事業者の皆様へのひとつの導きとなることを期待し創設いたしました。

本年度は、市内外から60物件のご応募をいただき、その中から、太宰府らしい歴史的な風情を感じさせる物件だけでなく、新たな太宰府の景観を創造する建築物や活動など、多様な7物件が受賞作品に決定しましたので、ここにご紹介いたします。

今後も、太宰府にしかない景観を百年先まで引き継ぎ、創造していくため、市民・事業者の皆様のご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後に、審査をしていただきました景観・市民遺産審議会委員をはじめ、関係者の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、受賞者並びに応募者の皆様の今後の活躍をお祈りいたします。



太宰府市長
井上 保廣

太宰府市 建設経済部 都市計画課

景観・歴史のまち推進係

〒818-0198

福岡県太宰府市観世音寺一丁目1番1号

TEL 092-921-2121 FAX 092-921-1601

Email urban-planning@city.dazaifu.lg.jp

太宰府市公式ホームページ <http://www.city.dazaifu.lg.jp>



■ だざいふ景観大賞 ■ ■ 「太宰府の老舗店舗建築部門」部門賞 ■



甘木屋【明治 21 年建築 平成 22 年修理】

所有者 高田 照子 設計者 株式会社河上建築事務所（修理設計者）

選定理由 太宰府天満宮参道における「さいふまいり」の歴史的景観を顕著に表現し、太宰府市が取り組む歴史まちづくりにとって参道景観の未来に貢献している。

第 1 回だざいふ景観賞への多数のご応募ありがとうございました。

皆さんの見つけた太宰府の季節感・懐かしさ・魅力あふれる景観は、どれも思いが伝わる素晴らしいものばかりでした。

これらの景観スポットから、受賞スポットが決定しました。



■ 市長賞 ■

■ 「わたしが創る太宰府の景観部門」部門賞 ■

公益財団法人 古都大宰府保存協会

ゆづるはの会

選定理由 平成 7 (1995) 年より 19 年間、市民有志によるボランティア活動で万葉植栽の手入れを行っており、史跡地内の緑化景観保全に貢献している。



■ 特別賞 ■

小田家 行為者 小田 千代子

選定理由 国内外の多くの人々が往来する太宰府天満宮参道沿いの一角で、日々、自宅の庭に咲く花を飾り続けられ、さりげない心配りとともに、心地よい空間を演出している。



■ 「郷土太宰府の住まい部門」部門賞 ■

太宰府天満宮 楼門【大正 3 年再築】

所有者 西高辻 信良 設計者 三條 栄三郎（故人）

選定理由 歴史的建造物としての楼門と、背景のクスノキの緑が調和し、古都太宰府にふさわしい景観を形づくっている。



■ 「太宰府コンTEMPラリー住宅部門」部門賞 ■

太宰府 草の家【平成 22 年建築】

所有者 菊池 慎一郎 設計者 菊池 夏枝

選定理由 屋根や外壁などに自然素材を採り入れ、かつ緑化をふんだんに施すなど、太宰府の住宅景観の方向性を導き出している。



■ 「新しい太宰府のランドマーク部門」部門賞 ■

九州国立博物館【平成 17 年建築】

所有者 九州国立博物館 設計者 菊竹・久米設計共同体

選定理由 チタン塗装により程良い色合いを醸し出している。空をイメージした現代に通じる色彩であり、太宰府の新たなランドマークにふさわしい。



■ 「太宰府のかぜ薫るみどり部門」部門賞 ■

光明寺 庭園【昭和 32 年作庭】

所有者 宗教法人 光明寺 設計者 重森 三玲（故人）

選定理由 四季を通じて古都太宰府にふさわしい緑化景観である。

※「太宰府のおもてなしのこころ部門」及び「ふるさと太宰府の原風景部門」の部門賞該当物件はありませんでした。